


An Analysis of L2 Learners' Overuse and Underuse of Intensifiers in English

吉川 寛人

1. 導入

- 英語で自分の意見を明瞭に述べる必要性
 - 強意副詞は、意見表明において重要な役割を果たす。
 - しかし、学習者は特定の強意副詞を過剰/過少使用する傾向
- 
- 英語での意見が効果的に伝わらない可能性

1. 導入

- 研究の最終目標

① 学習者が特定の強意副詞を過剰/過少使用してしまう原因をコーパスデータから分析

② それをもとに、強意副詞の学習方法や、学習者向け英語辞書の記述に示唆を与える。

2. 先行研究

- Quirk et al. (1985) による強意副詞の分類

		examples
Amplifiers	Maximizers	absolutely, completely, extremely,
	Boosters	very, highly, strongly, terribly
Downtoners	Approximators	nearly, virtually
	Compromisers	enough, rather
	Diminishers	partly, slightly, somewhat
	Minimizers	hardly, scarcely

2. 先行研究

- Firth (1968) : “one possible explanation for their overuse may well be that they have direct translational equivalents which are very frequent in French”. (for example, *completely* and *complètement*)
- Xiao & McEnery (2006) explored the collocational behavior of intensifier and adjectives of Chinese-speaking English learners.
- Tuncar (2016) examined the use of maximizers and semantic prosodic awareness of Turkish speaking English learners.

3. 研究方法

- 学習者が特定の強意副詞を過剰/過少使用してしまう原因に関する仮説
 - ① 強意副詞と形容詞を組み合わせたコロケーションの違い
 - ② 強意副詞のsemantic prosody（意味的傾向）の違い
 - ③ 母語強意副詞の後に続く形容詞のCEFR-levelの影響

3. 研究方法

- 使用するコーパス

ICNALE (アジアの10カ国の英語学習者及び、英語母語話者
データ)

BNC (イギリス英語を使う英語母語話者)

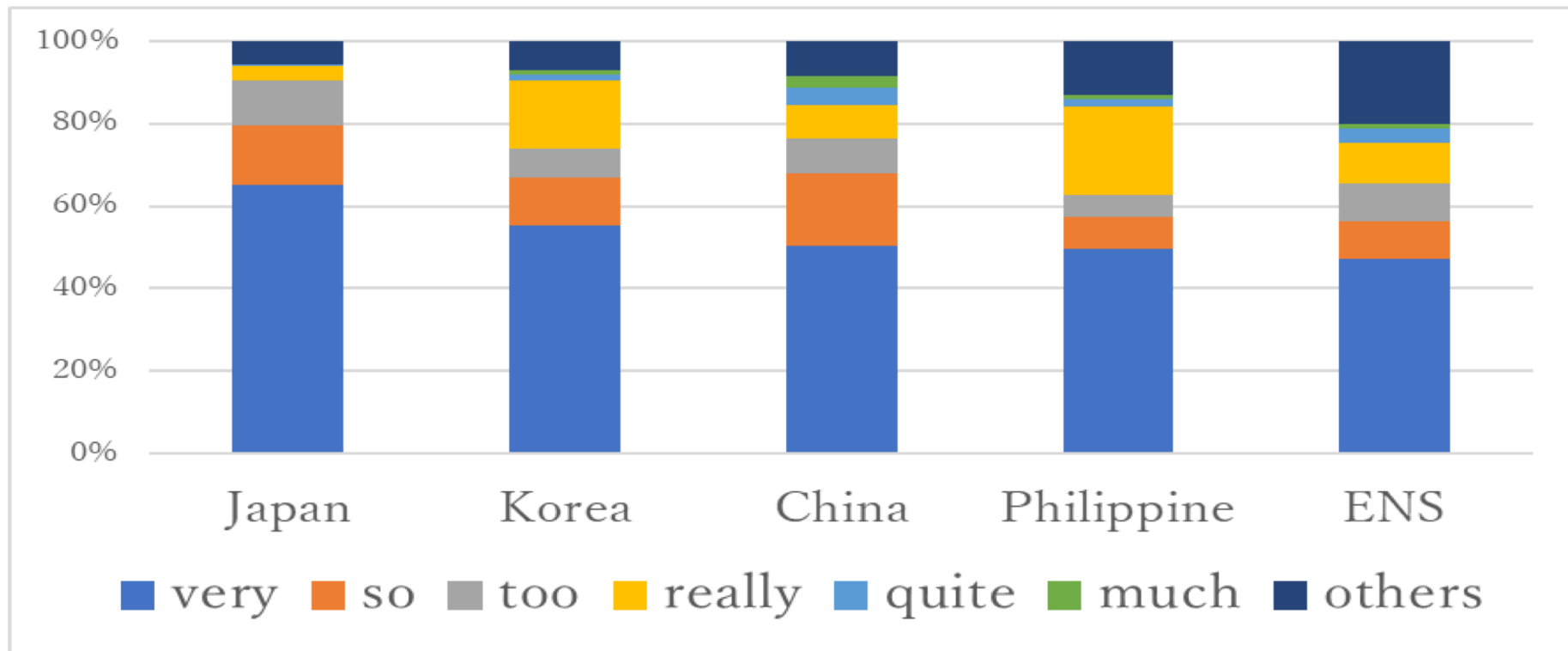
COCA (アメリカ英語を使う英語母語話者)

3. 研究方法

- 過剰/過少使用されている強意副詞の具体例
→ICNALEの学習者と英語母語話者のデータを比較
- コロケーション及び意味的傾向の差異
→ICNALEの学習者のデータと、BNC及びCOCAの英語母語話者のデータを比較

4. 結果

4.1 過剰/過少使用されている強意副詞の具体例



4. 結果

4.1 過剰/過少使用されている強意副詞の具体例

- 主な強意副詞の使用頻度の比較

	ICNALE(per mil)	BNC(per mil)
very	2433	901
really	319	88
much	294	166
so	711	532
too	478	363

4. 結果

4.1 過剰/過少使用されている強意副詞の具体例

- Downtoners全体の頻度の比較
- いくつかのdowntonersの頻度の比較

	Amplifiers	Downtoners
BNC	81.6%	18.4%
ICNALE	97.9%	2.1%

	ICNALE (per mil)	BNC (per mil)
virtually	2	20
partly	2	8
slightly	3	40
somewhat	5	27
hardly	2	17

2. 先行研究

- Quirk et al. (1985) による強意副詞の分類

		examples
Amplifiers	Maximizers	absolutely, completely, extremely,
	Boosters	very, highly, strongly, terribly
Downtoners	Approximators	nearly, virtually
	Compromisers	enough, rather
	Diminishers	partly, slightly, somewhat
	Minimizers	hardly, scarcely

4. 結果

4.2 強意副詞と形容詞のコロケーション

• very

BNC	ICNALE
good	important
much	much
little	bad
difficult	good
different	difficult

• so

BNC	ICNALE
much	much
many	bad
bad	many
close	important
easy	easy

4. 結果

4.2 強意副詞と形容詞のコロケーション

- too

BNC	ICNALE
good	important
much	bad
little	much
difficult	good
different	difficult

4. 結果

* ICNALEのトピックによる影響

- *Important*及び*bad*の使用頻度(per million words)

	ENS in BNC	Learners in ICNALE	ENS in ICNALE
important	393.43	1501.12	2120.22
bad	151.59	2399.32	860.76

4. 結果

4.2 強意副詞と形容詞のコロケーション

- **absolutely**

BNC	ICNALE
right	necessary
neccesary	wrong
clear	true
essential	right
sure	correct

- **extremely**

BNC	ICNALE
difficult	(harmful)
important	high
useful	bad
rare	important
valuable	dangerous

4. 結果

4.3 強意副詞の意味的傾向

• totally

	BNC	ICNALE	COCA
	Rate (%)	Rate (%)	Rate (%)
Positive	16.2	18.9	29.8
Negative	60.9	54.1	55.1
Neutral	22.9	27.0	15.1

• very

	BNC	ICNALE	COCA
	Rate(%)	Rate(%)	Rate(%)
Positive	57.6	58.3	52.4
Negative	31.0	34.6	35.6
Neutral	11.4	7.2	12.0

4. 結果

4.4 強意副詞と共起する形容詞のCEFR-level

- very
- so

words	CEFR-level
important	A1
bad	A1
much	A1
good	A1
difficult	A2
happy	A1

words	CEFR-level
much	A1
bad	A1
many	A1
important	A1
easy	A1
close	A2

4. 結果

4.4 強意副詞と共起する形容詞のCEFR-level

• extremely

words	CEFR-level
high	A1
dangerous	A2
bad	A1
important	A1
essential	B1
useful	A2

• highly

words	CEFR-level
likely	B1
possible	A1
dangerous	A2
important	A1
competitive	B2
successful	B1

4. 結果

4.5 過剰/過少使用の原因となっている可能性のあるその他の文法的誤用

- ウィズダム英和辞典(3rd edition) : “The intensifier *very* does not modify adjectives that include the meaning of *very* in themselves, such as *awful, great, wonderful, and so on*”.
- ICNALEの学習者データにおいては*very wonderful, very terrible*のような誤用例がみられた (*very terrible*に関しては21例)

4. 結果

4.5 過剰/過少使用の原因となっている可能性のあるその他の文法的誤用

- 強意副詞 *very* は *non-gradable adjectives*（非段階的形容詞）を修飾しない。 Quirk et al. (1985) : “most adjectives are gradable” but some of them, such as *right* or *perfect* are not.
 - ICNALEの学習者データには *very right* や *very wrong* のような例
 - これらの *very* は *quite* に置き換える必要がある。

5. 教育的側面への示唆

- 学習者は学習初期の段階で習得した強意副詞を過剰使用しやすい。
 - 強意副詞には様々な種類があることを示す。
 - 英作文では、同じ単語を繰り返さない方が良いことを示す。
- 学習者は英語母語話者と異なるコロケーションを使用している場合がある。
 - 各形容詞が共起しやすい強意副詞を持っていることを示す。

5. 教育的側面への示唆

- 辞書の訳語の定義だけでは、各強意副詞の差異は曖昧
 - 英語母語話者が使用するコロケーションのデータを基に、辞書の例文にもそれを多く取り入れる。
 - 特に共起しやすいものは、例文だけでなく、文章で明示的に示す。

5. 教育的側面への示唆

- Semantic prosody : *totally*の場合

➤ ジーニアス英和辞典においては、*totally*が形容詞を修飾している例文の中で7割以上の形容詞がネガティブな意味を持つ形容詞。しかし、この傾向について明示的な説明はない。この例文から、英語学習者は*totally*がネガティブな意味を持つ形容詞と共起しやすいということが推測できるのか。

5. 教育的側面への示唆

- 以上のような示唆の欠点
 - 強意副詞やその collocation 及び semantic prosody に関する情報が、これ以上教室での指導や、辞書の記述に取り入れられると情報過多になってしまう可能性がある。

6. 結論

- 学習者が特定の強意副詞を過剰/過少使用してしまう原因に関する仮説
 - ① 強意副詞と形容詞を組み合わせたコロケーションの違い
 - ② 強意副詞のsemantic prosody（意味的傾向）の違い
 - ③ 強意副詞と共起しやすい形容詞の単語レベルの影響

6. 結論

- 学習者が特定の強意副詞を過剰/過少使用してしまう主な原因：
 - ① 学習者が使用する強意副詞と形容詞のコロケーションが、英語母語話者と異なる。もしくは、学習者がコロケーションという概念そのものにもあまり注意を払っていない。
 - ② **very**や**so**のような学習者が過剰使用しやすい強意副詞は、学習者が学習段階の初期に習得する形容詞と共起しやすい。その結果、そうした強意副詞を過剰使用してしまう。

6. 結論

- 教育的側面への示唆

➤ 強意副詞にはたくさんの種類があることや、英作文においては、同じ単語を繰り返し使用しない方がよいことを示す。



では、そうした各強意副詞をどのように使い分けするのか。

➤ 似たような強意副詞の差異に関するより明示的説明や、コロケーションによる差異の情報の提示が必要。

7. 課題

- 文法的誤りによる *very* の誤用は誤用例がそれほど数多くあるわけではないなか、どれほど過剰使用の傾向に影響を与えているといえるのか。
- 辞書にコロケーション等のこれ以上詳しい情報を入れるのは情報過多になってしまう可能性もある。
- ICNALE の英作文のトピックによる影響をどこまで排除できたか